

SWY を通して学んだこと／SWY に参加した感想

船上では、参加青年一人ひとりに全く違ったドラマがありました。SWY を通して学んだことや SWY に参加しての感想を、参加青年 5 人が語ります。

体感するグローバルリーダーシップ

大穂 誠孝

私はこの事業において、リーダーシップ・セミナー委員会のリーダーを務めるほか、茶道クラブやギターの弾き語りなど、様々なことに挑戦しました。

リーダーシップ・セミナー委員会では、語学力も考え方もバラバラなメンバーをまとめるのは非常に大変でしたが、メンバーの協力を得ながらチームをサポートして、自分たちでゼロから企画するセッションを無事に完成させることができました。

茶道クラブでは、エキシビションでの発表に向けて、茶道の所作と日本のポップ音楽を混ぜたダンスを創作して練習に励みました。正座に慣れない外国人青年をフォローしながら、斬新な茶道の形を示すことができました。

弾き語りでは、「ふるさと」や「上を向いて歩こう」といった日本の名曲を演奏して、日本文化の発信に取り組みました。

これらの挑戦は、英語力はもちろん、交渉力や企画力、リーダーシップなどを、理論だけでなく実践的に学ぶ貴重な経験となりました。



SWY と、夢と

内田 詩織

私には夢があります。それは、日本や海外で心理学を学び、その知見を日本に住む人たちのために活かすことです。心理学を専門的に学ぶためには、英語が必須なのですが、私は英語に苦手意識があったので、ずっと手を出せずにいました。そんなとき、既参加青年の先輩からSWYの話聞き、「英語に本気で向き合うならこの機会しかない!」と参加を決意しました。

しかし、そんなにすぐに英語が上達するはずもなく、プログラム中は毎日英語でのコミュニケーションについて悩んでいました。それでも、PYセミナー委員会の委員長を務めたり、他の参加青年と対話をしたりする中で、心理学への熱意や英語の勉強への目的意識をより明確にすることができました。私の夢への道のりは長いですが、SWYでの経験を胸に、進んでいきます。



イベント委員を通して私が学んだこと

儀間 さくら

イベント委員では、プログラム中に行われた計3回のイベントを企画・運営しました。初めころは、日本参加青年の英語力が未熟だったため、ミーティングで外国参加青年と意見の食い違いがあったり、日本人だけで日本語で話し合ってしまったたりすることが多々ありました。その結果、情報共有が上手くいかず、作業も日本人だけで行うことが多く、外国参加青年との間に少し距離を感じました。しかし次第にみんなと仲良くなるにつれ、協力しながら活動し、良いイベントを作り上げることができました。

準備や運営がとても忙しかった分、イベントが成功したときの達成感は大きかったです。かけがえのない仲間もでき、困難や悩みも含めて非常に良い経験になりました。また、英語で意見を述べる勇気やコミュニケーションの大切さも学び、多くの気づきがありました。



「世界青年の船」事業

船上生活について

ある1日のスケジュール

7:30	モーニングコール
7:45 - 8:30	朝食
8:45 - 9:20	点呼、モーニングアッセンブリー
9:30 - 10:40	1時限目
10:50 - 12:00	2時限目
12:00 - 13:30	昼食
13:40 - 14:50	3時限目
15:00 - 16:10	4時限目
16:20 - 17:30	5時限目
18:00 - 18:15	レター・グループミーティング
18:15 - 19:45	夕食
20:00 -	自主活動、デリゲーション・パーティー

点呼、モーニングアッセンブリー

参加青年は、休日を除き、毎朝8時45分までに全員ホールに集合します。そこで点呼を取り、健康管理のために体温を測定。その後、管理部からの連絡や参加青年からの各種アナウンスがあり、担当レター・グループがゲームなど親睦を深めるようなアクティビティを行います。

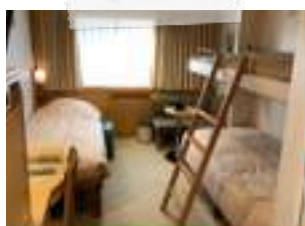
日々のルーティン

レター・グループミーティング

休日を除き、原則として毎日夕方にレター・グループごとに集合し、管理部や参加青年からの連絡事項を共有します。レター・グループ内で話し合いをしたり、ゲームをしたりすることも。毎日顔を合わせることでチームとしての一体感を高められる、よい機会です。



船上生活の一コマ



デリゲーション・パーティー

各デリゲーション（参加国）がホストとなって開催する、文化紹介や交流を目的としたパーティー。その国の飲食物を提供したりゲームやクイズを行ったりして、各国の文化を紹介します。ダンスをする、伝統的な衣装を着るなど、実際に体験することで、その国を身近に感じることができるイベントです。

食事

朝食・昼食・夕食は、船の2階にある「ダイニング瑞穂」でいただきます。毎食、栄養バランスに配慮したバラエティ豊かな料理がビュッフェ形式で提供され、目移りするほど。デザートも充実しています。食事制限がある参加青年のための特別メニューもあります。

キャビン生活

船では、参加国の異なる3人の青年が1つのキャビン（客室）で共同生活をします。キャビンの雰囲気や時間の過ごし方はメンバーによって様々。ときには葛藤も…。お互いが気持ちよく過ごせるよう基本的なルールを決めるなど、ルームメイトとの話し合いが大切です。

コース・ディスカッション

「世界青年の船」事業の研修の柱のひとつで、参加青年は7つのテーマの中から興味関心のあるものを選び、各ファシリテーターのリードのもとディスカッションを行います。陸上・船上研修中に全5回のセッションがあり、最後に学びを共有するサマリー・フォーラムが行われます。各コースの概要と、参加青年の声を紹介します。

自他をエンパワメントする 対話コース

*Conversations about
empowering
self and others*



個々人の経験や価値観、感情などを自由に表出できる安心な環境と、それらを受容する多様な方法の存在を知ることが目的。数多くの対話を経て、自他をエンパワメントするために必要な要素を実感できるコースです。

エンパワメントを考える上でのキーワードは、「好奇心」と「共感」です。しかし、全員が全ての物事に興味を持つことや共感することは必要ありません。それぞれの興味や感覚が異なることを互いに理解した上でエンパワメントするには、「信頼し、応援し合う」という相互関係がとても重要だと実感しました。多様化する社会だからこそ「いま」を生き、身近な人をエンパワメントし続けたいです。(長瀬 智寛)

ダイバーシティ推進とインクルーシブ社会の実現コース

*Diversity and
Inclusion*



日常生活に潜む様々な偏見や差別に焦点を当て、ディスカッションを行うことで、これからの時代に必要な多様な視点を持ち合わせたリーダーを育成することを目的としたコース。自分と異なるバックグラウンドを持つ参加青年との交流活動や会話を通して、無意識に自分の基準となっていた「当たり前」に気付きます。

参加青年一人ひとりが主役のコースだったと強く感じます。毎セッションの冒頭で、共通となる知識をインプットするために、世界で起きている議論内容について共有する時間があるものの、多くの時間は、参加者の経験をベースに議論が展開されました。本気で経験を話し、それを全力で受け止める…。これを繰り返す中で、肩書きではなく心でぶつかることができる場所、インクルーシブな空間がつくられていきました。このような空間を広げることに貢献したいという想いを再確認しました。(平賀 理沙)

国際協力コース

*International
Cooperation*



参加青年が実際に行った国際協力活動や、各国で実施されている国際協力活動について共有し、互いに学び合うコース。参加青年が本コースで国際協力に関する必要な知識や技量を身につけ、実施したい事後活動のプロジェクトへと役立てることを目的としています。

様々なバックグラウンドを持った参加青年が集まりました。国境なき医師団やNGO職員など、実際に国際協力を仕事にしている人や、国際関係やODAを専門に学ぶ学生もいれば、エンジニア、農業、経済など、全く別の分野で活躍している人もいました。だからこそ、様々な視点で国際協力を議論できましたし、全ての分野が国際協力に通じているところを発見できました。コースの中では机上の学びに留まらず、「プログラムが終わって国に帰った後、どんな国際協力活動をやりたいか？」ということまで話し合いました。私も、国際協力の現場を自分の目で見るために、来年はアフリカのNGOでインターンをすることに決めました。背中を押してくれたのは、国際協力コースで出会った人々でした。(金信 光恵)